

10TH JANUARY 2022 - 20TH FEBRUARY 2022

角野隼斗 HAYATO SUMINO

HAYATO SUMINO CONCERT TOUR 2022 “CHOPIN, GERSHWIN AND...”

10TH JANUARY 2022 - 20TH FEBRUARY 2022

【岡山】
1月10日(月・祝) 開場13:00/開演14:00
岡山シンフォニーホール

【大阪】
1月15日(土) 開場13:00/開演14:00
サ・シンフォニーホール

【山形】
1月20日(木) 開場18:00/開演19:00
山形市民会館 大ホール

【仙台】
1月21日(金) 開場18:00/開演19:00
東京エレクトロンホール宮城

【福岡】
1月23日(日) 開場13:00/開演14:00
FFCホール

【愛知】
1月28日(金) 開場18:00/開演19:00
愛知県芸術劇場 コンサートホール

【静岡】
1月29日(土) 開場13:00/開演14:00
沼津市民文化センター 大ホール

【北海道】
2月5日(土) 開場13:00/開演14:00
札幌コンサートホール Kitara 大ホール

【東京】
2月20日(日) 開場17:00/開演18:00
東京国際フォーラム ホールA
Streaming+ / 18:00 配信開始

Official HP



Official FC 8810



Streaming+



去年は自分にとって怒濤の年でした。

今回ショパン、ガーシュウィンという二人の作曲家を取り上げたのは、そんな去年の僕の経験を昇華させたいという個人的な都合であります。もっとも自分の単独公演ですから個人的であって全く差し支えないのですが、伝統は常にある種の客観性を要求されるものです。

二人に無理矢理共通点を見出すつもりはないのですが、僕が彼らに惹かれる理由の一つとして、心の中に「少年」を持ち続けた、というところがあるような気がします。純粋さと、新しさへの原始的な欲求と、遊び心。

大人になるということは、知らなかったことを知る。出来なかったことが出来るようになることでもあります。世界への理解は深まり、広がっていきます。でもどこまでいっても、僕は敢えてずっと少年でいたいのです。

心からの音楽への愛を、ただただ音楽に没入できる喜びを、皆さまと共有できることを楽しみにしています。

角野隼斗

ショパン：ワルツ 第1番 変ホ長調 作品18「華麗なる大円舞曲」
CHOPIN : WALTZS IN E FLAT MAJOR, OP.18

角野隼斗：大猫のワルツ
HAYATO SUMINO : BIG CAT WALTZ

角野隼斗／ショパン：胎動
HAYATO SUMINO / CHOPIN : MOVEMENT

ショパン：マズルカ ハ長調 作品24-2
CHOPIN : MAZURKAS IN C MAJOR, OP.24 NO.2

ショパン：エチュード イ短調 作品25-11「木枯らし」
CHOPIN : ETUDES IN A MINOR, OP.25 NO.11

角野隼斗／ショパン：追憶
HAYATO SUMINO / CHOPIN : RECOLLECTION

ショパン：マズルカ 嬰ハ短調 作品63-3
CHOPIN : MAZURKAS IN C SHARP MINOR, OP.63 NO.3

ショパン：ピアノソナタ 第2番 変ロ短調 作品35
CHOPIN : SONATA IN B FLAT MINOR, OP.35
I GRAVE - DOPPIO MOVIMENTO / II SCHERZO / III MARCHE FUNEBRE. LENTO / IV FINALE. PRESTO

— 休憩 —

ガーシュウィン：アイ・ガット・リズム
GERSHWIN : I GOT RHYTHM

ガーシュウィン：3つの前奏曲
GERSHWIN : 3 PRELUDES

角野隼斗：ティーン・ファンタジア
HAYATO SUMINO : TEEN FANTASIA

ガーシュウィン：ラプソディー・イン・ブルー
GERSHWIN : RHAPSODY IN BLUE

— アンコール —

パデレフスキ：ノクターン 変ロ長調 作品16-4
PADEREWSKI : NOCTURNE IN B FLAT MAJOR OP.16 NO.4

ショパン：ワルツ 第6番「子犬」変ニ長調 作品64-1
CHOPIN : WALZES IN D FLAT MAJOR OP.64 NO.1

ショパン：ポロネーズ 第6番「英雄」変イ長調 作品53
CHOPIN : POLONAISE IN A FLAT MAJOR OP.53



CHOPIN

今なおピアニストたちの指標でありつづける作曲家、フレデリック・ショパン(1810-1849)。ポーランドに生まれ、パリで活躍した彼は「ピアノの詩人」と呼ばれ、華やかなサロンのイメージで語られることが多い。しかし、彼の楽曲を特徴づけるのは、じつは「リズム」である。有名な「英雄ポロネーズ」や「子犬のワルツ」など、その楽曲の多くにダンスのリズムが登場し、聴く者に浮き立つような多幸感をもたらす。とりわけポーランドの民衆たちのダンスである「マズルカ」のリズムは、ショパンの魂だ。母の子守歌や、少年時代の旅で心に刻まれたリズム。二十歳で旅立って以来、死ぬまで故郷に帰ることができなかったショパンにとって、マズルカは自分のルーツとの接続点だったのかもしれない。ショパン・コンクールに挑み、マズルカを中心に据えた第2次予選で世界を魅了した角野隼斗にとって、リズムは要。その共鳴は、新たなグルーブを生み出しつづける。(text: 高野麻衣)

GERSHWIN

クラシックとジャズを融合した、華やかなアメリカン・ミュージックで知られる作曲家、ジョージ・ガーシュウィン(1898-1937)。一つのジャンルにとどまることなく、オペラやミュージカル映画まで幅広く名曲を生み出した彼の音楽活動は、そのまま角野隼斗のイメージと重なる。ガーシュウィンが作詞家の兄アイラとコンビを組み、短い生涯の中で生み出したスタンダード・ナンバーは、なんと500曲。なかでも「アイ・ガット・リズム」は、「リズムチェンジ」と呼ばれる巧みなコード進行によって、その後のジャズ曲の基礎にさえなった。クラシックで培った緻密な構成力は、その卓越したセンスとあいまって、やがて音楽史に燦然と輝く名曲「ラブソディ・イン・ブルー」を生み出す。ジャズの自由なリズムと遊び心あふれるメロディ、それらを支えるシンフォニックな響き。13歳ではじめてこの曲を弾き、人生の半分をこの曲とともにいるという角野にとっても、唯一無二の1曲だ。(text: 高野麻衣)



AND... HAYATO SUMINO

1995年生まれ。
2018年、東京大学大学院在学中にピティナピアノコンペティション特級グランプリ受賞。
これをきっかけに、本格的に音楽活動を始める。
2021年、第18回ショパン国際ピアノコンクールでセミファイナリスト。これまでに読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、国立ブラショフ・フィルハーモニー交響楽団等と共演。これまでにジャン＝マルク・ルイサダ、金子勝子、吉田友昭の各氏に師事。2020年3月、東京大学大学院情報理工学系研究科を卒業。卒業時に「東京大学総長大賞」を受賞。現在は国内外でコンサート活動を行う傍ら、“Cateen(かていん)”名義で自ら作編曲および演奏した動画をYouTubeにて配信し、チャンネル登録者数は89万人、総再生回数はおよそ1億回(2021年12月現在)。2018年9月より半年間、フランス音響音楽研究所(IRCAM)にて音楽情報処理の研究に従事。パリ、ウィーン、ポーランドなどにてリサイタルを開催し、好評を博す。2019年12月に、自身初の全国5都市でのソロリサイタルツアーを開催。翌年12月にはサントリーホールデビューを果たし、チケットは発売即日に完売。2021年6月にはジャズの聖地「ブルーノート東京」デビューを果たす。
2020年12月1stフルアルバム「HAYATOSM」(eplus music)をリリース。オリコンデイリー8位を獲得。
その他にも「島本須美 sings ジブリ リニューアルピアノバージョン」(Warner)では全曲ピアノ演奏/編曲。“ゆず”、“映秀。”をはじめ、様々なアーティストとのコラボ活動も手掛ける。またCMではCASIO「Privia」での出演・演奏、ブルボン「ルマンド」の音楽/ピアノ演奏を担当。メディアにおいては、MBS「情熱大陸」TBS「バース・デイ」などのドキュメンタリー番組や、テレビ朝日「題名のない音楽会」「ミュージックステーション」NHK「クラシックTV」「クラシック倶楽部」などの音楽番組にテレビ出演多数。2021年末「第72回NHK紅白歌合戦」での上白石萌音との共演が記憶に新しい。2020年4月からMBSラジオにて「角野準斗のはやとちりラジオ」のパーソナリティを務める。
2021年より、CASIO電子楽器アンバサダー、スタインウェイアーティスト。

クラシック音楽に確かな位置を築きつつも、ジャンルを越えた音楽すべてに丁寧に軸足を置く、真に新しいタイプのピアニストとして注目を集めている。
<https://hayatosum.com/>